曽根遺跡 学び深める

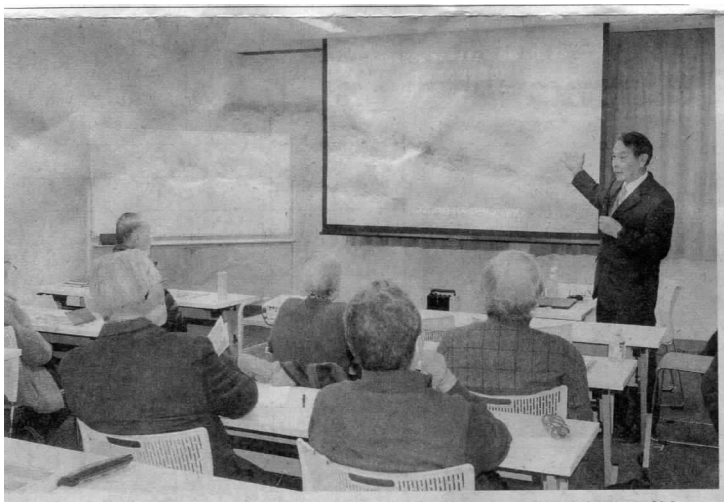
八ケ岳森林文化の会 冬の研修会

茅野

八ケ岳森林文化の会は26日、冬の研修会をゆいわーく茅野（茅野市塚原）で開いた。会員と一般参加合わせて約30人が参加。諏訪湖博物館専門研究員の小口徹さんが登壇し「諏訪湖の成り立ちと曽根遺跡の謎を読み解く」と題して講演した。

観察会を行わない冬季にも学びを深めようと実施する恒例の研修会。小口さんは冒頭、「諏訪湖は地学的に見て非常に魅力のある場所だ」などと強調。自身がかつて出演したテレビ番組を参照しながら諏訪湖の成り立ちについて説明した。その後、「曽根遺跡がなぜ湖底にあるのか」をめぐり、議論の交わされた「曽根論争」を紹介。論争に加わった考古学者や地質学者らを挙げながら、遺跡がかつて陸上にあったことが判明するまでの経緯まで話した。

同会の井村悦子事務局長は「地域の自然の成り立ちや豊かさを知る中で、森を守ろうと思う人が増えればうれしい」と話していた。



諏訪湖の成り立ちや曽根遺跡について学びを深める参加者たち